

深部静脈血栓症に対する超音波検査－標準法と簡易法との比較検討－ に関する研究のお知らせ

帝京大学医療技術学部では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間：2025年5月28日～2028年3月31日

〔研究課題〕

深部静脈血栓症に対する超音波検査

－全下肢静脈エコー法と近位静脈エコー法との比較検討－

〔研究目的〕 この研究では、脚にできる血栓（血の塊）を見つけるための2つの超音波検査法（エコー検査）を比較します。1つは「全下肢静脈エコー法」、もう1つは「近位静脈エコー法」といいます。私たちは、両方法を後ろ向きに比較することにより、「近位静脈エコー法」で検出されにくい血栓の部位や特徴を明らかにすることを目的としています。

〔研究意義〕 深部静脈血栓症（DVT）は、脚の深い部分に血栓ができる病気で、これが肺に移動すると肺血栓塞栓症（PTE）を引き起こし、命にかかわることがあります。これを防ぐためには、DVTを早期に発見する必要があります。現在、DVTを診断するために多くの病院では脚全体を検査する「全下肢静脈エコー法」が標準的に用いられていますが、この検査には専門的な技術が必要で、検査には長い時間を要します。そのため、検査を必要とする患者さん全員に行うだけの検査枠の確保が困難です。一方で、「近位静脈エコー法」はより簡便で短時間で行えますが、検査範囲が限られているため見逃しのリスクを防ぐために1週間後の再検査が必要とされます。私たちの研究は、「全下肢静脈エコー法」と「近位静脈エコー法」の検査結果を比較することで、「近位静脈エコー法」で見逃しやすい血栓の特徴を明らかにし、安全に行う「近位静脈エコー法」の普及につながることを期待されます。

〔対象・研究方法〕 当院において2019年5月から2023年3月に、DVTが疑われた方に対して、2つの超音波検査法を実施した記録を使用して後ろ向きに比較し検証します。この研究では、20歳以上の方を対象とします。既存の検査データを用いるので、新たな検査・診療は必要としません。

〔研究機関名〕 帝京大学医療技術学部臨床検査学科

〔個人情報の取り扱い〕

「臨床研究における記録保管に関する標準業務手順書」に従います。研究に携わる関係者は対象者の個人情報保護に最大限の努力をします。研究責任／分担者は、他の情報との照合なしに個人を同定できない形に加工したデータを用い、個人を特定できる情報（氏名・住所・電話番号など）は記載しません。研究責任者は、当該臨床研究の実施に係る記録（文書および電子記録）を研究終了後、帝京大学臨床研究センターに10年間保存し、その後破棄いたします。

〔その他〕

本研究は、後ろ向きの疫学調査であり、患者さんへの経済負担や支払いは生じません。

本研究で得られた結果の発表および出版の可能性があります。いずれも対象者が特定できないよう十分に配慮し個人情報の加工を行った上で行います。

対象となる患者様で、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

問 い 合 わ せ 先

研究責任者: 帝京大学医療技術学部臨床検査学科 准教授 増山里枝子

研究分担者: 帝京大学医学部臨床検査医学 教授 横山直之

住所: TEL:03-3964-1211 (代表) [内線 46115]